

## 取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：自立支援・重度化防止

タイトル	地域共生社会の推進、相談支援体制の充実
------	---------------------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

実施内容	
伊賀市高齢者輝きプラン（第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）P31, 32	
自己評価結果	
課題と対応策	

## 後期（実績評価）

実施内容						
総合相談支援延べ件数（地域包括支援センター）						
計画期	第6期			第7期		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値				6,350件	6,350件	6,350件
実績値	6,401件	6,277件	6,790件	7,418件	7,845件	
自己評価結果（◎）						
介護や認知症等をきっかけに支援を開始する中で、経済的に困窮していること、虐待を受けていることなど複雑な課題を把握することも多く、関係機関と連携を図り必要な支援につなげることができた。						
課題と対応策						
福祉の一次相談窓口として、地域包括支援センター（本庁、東部サテライト、南部サテライトの3か所）に三職種（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）を置き、それぞれの専門性を活かして相談を受け、適切な関係機関へつなげる。また、より困難な相談事例に対応するため、専門職種のスキルアップを図る。						

## 取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：自立支援・重度化防止

タイトル	高齢者の権利を守る支援の充実
------	----------------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

実施内容	伊賀市高齢者輝きプラン（第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）P35, 36
自己評価結果	
課題と対応策	

## 後期（実績評価）

実施内容	市長申立による後見人等就任件数（介護高齢福祉課高齢福祉係）					
計画期	第6期			第7期		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値				4件	4件	4件
実績値	4件	5件	3件	4件	5件	
自己評価結果（◎）	市長申立件数は第6期と比較すると横ばいであるが、報酬助成については、年々増となっている。市長申立は福祉関係者からの相談によるものが大半であり、関係機関と連携を図ることで、調査から申立てまで速やかに行うことができた。					
課題と対応策	早期発見、早期対応が高齢者の支援に繋がるため、関係機関や地域が連携することで適切で迅速な対応がとれるように引き続きネットワークの強化を図る。また、伊賀地域福祉後見サポートセンター（中核機関）の機能を活用し、成年後見制度の研修会や講演会を行うことで継続的に情報を発信し、権利擁護に対する理解を深めるとともに、相談対応件数の増に努め、必要な支援に繋げていきたい。					

## 取組取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：自立支援・重度化防止

タイトル	地域ぐるみの高齢者支援の推進（地域包括ケアシステムの構築・活用）
------	----------------------------------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

実施内容	伊賀市高齢者輝きプラン（第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）P38
自己評価結果	
課題と対応策	

## 後期（実績評価）

実施内容	地域ケア会議の開催回数（地域包括支援センター）					
計画期	第6期			第7期		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値				40回	40回	40回
実績値	35回	31回	33回	37回	23回	
自己評価結果（△）	<p><b>【効果】</b> 厚生労働省が示す5つの機能のうち「個別課題解決機能」「ネットワーク構築機能」「地域課題発見機能」について、地域の支援者との協働によって果たすことができた。 なお、開催回数の減少については、高齢者虐待事案への対応件数の増加に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議が開催できなかったことが要因である。</p> <p><b>【課題】</b> 「地域づくり・資源開発機能」「政策形成機能」について、医療福祉政策課が開催する福祉施策調整会議の機能や当該会議の結果を踏まえた対応を強化する。</p> <p><b>【対応】</b> 社会福祉法の改正を念頭に入れ、地域共生社会の実現のため、地域生活課題を抱える地域住民に対する支援体制の検討について引き続き積極的に会議を開催する。また、「地域づくり・資源開発機能」「政策形成機能」について、医療福祉政策課と協議の上、福祉施策調整会議の機能や当該会議の結果を踏まえた対応を強化する。</p>					

## 取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：自立支援・重度化防止

タイトル	住みよいまちづくりの推進（高齢者の移動手段の確保）
------	---------------------------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

<b>実施内容</b>
伊賀市高齢者輝きプラン（第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）P46
<b>自己評価結果</b>
<b>課題と対応策</b>

## 後期（実績評価）

<b>実施内容</b>						
福祉有償運送事業補助金額（介護高齢福祉課高齢福祉係）						
計画期	第6期			第7期		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	—	—	—	11,500千円	11,500千円	11,500千円
実績値	10,888千円	10,464千円	11,000千円	11,065千円	9,640千円	
<b>自己評価結果（◎）</b>						
福祉有償運送事業者（非営利活動法人）に対し、運営費の一部を補助することが事業の運営に繋がっている。その結果、公共交通機関を一人で利用できない人への移動手段の確保に取り組むことができた。しかし、コロナの影響により利用者の減少がみられた。						
<b>課題と対応策</b>						
福祉有償運送事業者の人材不足（運転手）が深刻化しており、運営を維持していくことが困難になってきている。また、旅客からの対価もタクシーの概ね二分の一と定まっているため、運営資金のやりくりも厳しい状況にある。運転免許自主返納者を含め、高齢者の移動手段を確保するためには、他部署と連携を図り、市全体として移動手段を考えていく必要があるが、対応策が見出せていない。						

## 取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：自立支援・重度化防止

タイトル	いきいきと活動するために（介護予防の推進）
------	-----------------------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

実施内容	
伊賀市高齢者輝きプラン（第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）P49	
自己評価結果	
課題と対応策	

## 後期（実績評価）

実施内容						
忍にん体操普及会による出前講座実施回数（健康推進課）						
計画期	第6期			第7期		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	—	—	—	45回	46回	47回
実績値	44回	45回	45回	37回	18回	
自己評価結果（△）						
ケーブルTV等により、多くの市民に忍にん体操が普及してきたため、普及会への出前の依頼が減少していると考えられます。						
課題と対応策						
現在、普及会の活動だけでなく、ケーブルTV、DVD等の視聴により、多くの市民が忍にん体操に取り組んでいる状況です。今後も出前講座、ケーブルTV等のメディアをこれまで通り活用しながら、忍にん体操の普及啓発を図るとともに、現在、忍にん体操を行っている団体、個人を継続的に支援し、体操を続けることで介護予防につなげていく予定です。						

## 取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：自立支援・重度化防止

タイトル	認知症の人を地域で支え合う（認知症サポーターの養成・活用）
------	-------------------------------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

実施内容	伊賀市高齢者輝きプラン（第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）P54
自己評価結果	
課題と対応策	

## 後期（実績評価）

実施内容	認知症サポーター数（地域包括支援センター）					
計画期	第6期			第7期		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	—	—	—	5,300人	5,500人	6,000人
実績値	4,079人	4,744人	5,100人	6,377人	6,982人	
自己評価結果（◎）	認知症施策推進大綱では、小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員等をはじめ、人格形成の重要な時期である子ども・学生に対する養成講座を拡大することとされている。当市においても、学校や地域、職域等への働きかけを積極的に行い、サポーター養成講座の開催に協力をいただくことができた。このことにより登録者数が目標値を大きく上回った。					
課題と対応策	これまで養成してきた認知症サポーターの中で、認知症の人やその家族の手助けをしたい、具体的な活動を行いたいという意欲のある認知症サポーターに対して、ステップアップ講座を開催する。認知症（介護）予防教室や安心見守り声かけ訓練を各所で開催し、支援者を増やし、認知症になっても安心して住み続けることのできるまちづくりを目指す。					

## 取組と目標に対する自己評価シート

伊賀市：介護給付の適正化

タイトル	介護給付の適正化
------	----------

年度	2019（令和元）年度
----	-------------

## 前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

## 後期（実績評価）

実施内容：介護給付費適正化事業（介護高齢福祉課 介護事業係）					
計画期		第6期(2017年度)	第7期(2018年度)	第7期(2019年度)	第7期(2020年度)
(ア)要介護認定の適正化	目標値	—	13回	13回	13回
	実績値	13回	13回	13回	
(イ)ケアプランの点検	目標値	—	8事業所	8事業所	8事業所
	実績値	8事業所	8事業所	8事業所	
(ウ)住宅改修・福祉用具の点検	目標値	—	2件・2件	2件・2件	2件・2件
	実績値	2件・2件	2件・2件	2件・2件	
(エ)縦覧点検・医療情報との突合	目標値	—		144, 217件	137, 000件
	実績値		136, 868件	138, 247件	
(オ)介護給付費通知	目標値	—	年2回	年2回	年2回
	実績値	年2回	年2回	年2回	
<b>自己評価結果（◎）</b>					
<p>(ア)要介護認定の変更認定又は更新認定に係る認定調査の内容について点検を実施しました。</p> <p>(イ)ケアプランチェックは、伊賀市内の総ての居宅介護支援事業所を順番に巡回しており、令和元年度も8事業所実施しました。</p> <p>(ウ)住宅改修工事を行おうとする受給者宅の実態確認や工事見積書の点検、施工時の訪問調査等を実施しました。福祉用具利用者等に対し訪問調査を行い、必要性や利用状況等の点検等を実施しました。</p> <p>(エ)三重県国民健康保険団体連合会へ全件委託し、実施しました。</p> <p>(オ)年2回（9月と3月）受給者に対して、介護保険を利用した介護サービスの利用情報を通知しました。これらの取組を通じて、介護給付の適正化を図った。</p>					
<b>課題と対応策</b>					
国保連から提供されるデータを利用する給付費適正化の取組にシフトを進める。					